

ハイドロコルク 施工要領書

1. 施工前保管方法・注意事項

- 材料は雨水に濡れないように保管してください。
- 歪みや破損を防ぐために輸送中や保管時は平置きにしてください。
- 施工にかかる48時間以上前には施工場所に梱包されたまま置き、製品を現場の温度になじませてください。(現場適応) 梱包の内部のプラスチックフィルムは施工直前に取り外してください。
- 最適な施工条件(施工前、施工中、施工後48時間まで)は室内温度15℃～35℃です。保管(現場適応)もその条件下で行ってください。
- 傷が付かないように注意して搬入、保管してください。配送業者からの荷受け時に外損があった場合、その場で速やかに配送業者に連絡し、確認を取ってください。
- ハイドロコルクは天然コルクを芯材とし、表面と裏面にPVCを使用した製品です。
天然コルクは湿度、PVCは温度による影響で寸法変化する性質がありますので、その特性を良くご理解の上施工してください。

2. 下地

2-1: コンクリート下地

- コンクリート下地の場合セルフレベルで下地調整をして、不陸が出ないようにして下さい。
不陸は2mで3ミリ以下でなおかつ滑らかにし、段差などは1ミリ以下にしてください。
改修の場合は、穴などをしっかり埋めてください。
- モルタル・セルフレベルの含水率が10%以下になるまで養生期間(目安:3週間以上)を措いて下さい。
または、1m x 1mのポリシートか新聞紙でシールし、24時間経過させ、下地材面が変色しない事を確認してください。

2-2: 合板捨て貼り下地

- 合板はタイプ1(耐水性合板)F☆☆☆☆相当を使用し含水率を確認して下さい。
- 合板捨て貼りは段差(不陸)が無いようにして下さい。
不陸は2mで3ミリ以下でなおかつ滑らかにし、段差などは1ミリ以下にしてください。
- 合板は隔離をしないようにビスなどでしっかり固定してください。
- コンクリート下地の上に合板を捨て張りする場合でも、湿気の影響を受けますので、含水率に注意してください。特に、新たに打設した場合は合板の下に防湿シートを使用される事を推奨します。また、合板が湿度膨張により動く場合がありますので、1ミリ以上の隙間を適宜設けてください。

2-3: システムフロア・OAフロア下地

- 不陸は2mで3ミリ以下でなおかつ滑らかにし、段差などは1ミリ以下にしてください。
システムフロアやOAフロアに直接施工するのではなく、合板12ミリ以上を捨て貼りしてください。
合板は3～5ミリ程度隙間を開け、ビスなどでしっかり固定してください。
- 床鳴りやキシミ、沈みがないか確認してください。
- 床下から湿気が上がらないようにしてください。新設の場合は防湿シートの使用を推奨します。

2-4: 既存床下地(塩ビ、リノリウム・木製フローリング床等)

- 不陸は2mで3ミリ以下でなおかつ滑らかにし、段差などは1ミリ以下にしてください。
- 弾性のある塩ビやリノリウム製の床の上に施工する場合は、浮きなどがないように確認し、浮いている場合は確実に接着してください。

- ・既存木製床下地（フローリング等）の場合反りや動き、沈みが出ないように確認し、懸念がある場合はビスなどでしっかり固定してください。
- ・既存木製床下地の場合、張り方向は既存床に対して直交方向で貼ってください。
- ・既存床の目地や段差を拾う場合がありますので、施工前に確認してください。

3. 施工に関する注意事項

3-1：施工方法

- ・施工方法は接着工法にて施工して下さい。

3-2：クリアランス

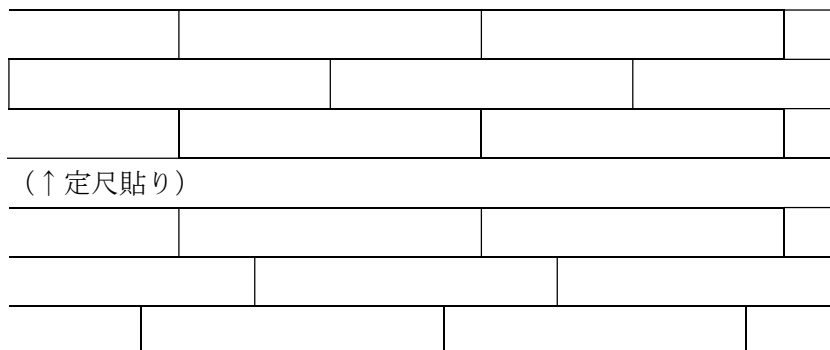
- ・壁際に1ミリ以上のクリアランスを取って下さい。ただし、接着剤が硬化する前に温度変化によって延びる場合がありますので、現場適応期間を十分にとり、施工中から施工後48時間は環境温度（15℃～35℃）を極力一定に保ち、材料の動きが出ないように配慮してください。

3-4：直射日光

- ・窓際は日照条件（直射日光）による温度差で、突き上げを生じやすいため、施工中は窓を目張りし、接着硬化後（2～3日）、目張りをはずすようにしてください。

4. 施工前の確認事項

- ・合板下地、システムフロア下地、OAフロア下地のきしみと床鳴り、不陸や隙間、湿気や含水率。
- ・コンクリート下地の不陸と含水率
- ・貼り替えの場合は古い接着剤の除去、下地表面の補修・平滑調整
- ・基準墨
- ・乾燥と湿度対策（防湿シート等）の確認
- ・材料の確認：発注品との仕様照合・数量・状態（傷・反り）
- ・現場状況の確認：材料の置き場と加工場 → 他の内装作業等との周囲確認・調整
 内装との納まり部の確認
 換気・電気 → 作業環境を整える。接着剤の揮発・結露・漏電・火気の注意
 室温・湿度 → 作業環境を整える。接着剤の効果確保・結露・湿気の注意
 （施工条件：室温15℃～35℃）
- ・配置の確認：貼り方向・貼り方
 流し貼り（定尺貼り、乱尺貼り）にて施工してください。（次頁図参照）



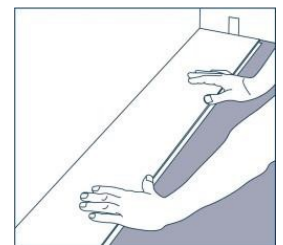
- ・配色の確認：色柄のパターンがあります。仮並べをして全体のバランスを確認して下さい。

5. 施工手順

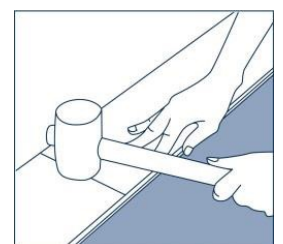
- (ア)清掃：施工前に床下地の表面のゴミ、ホコリ、油污れ等を取り除きます。
- (イ)前置き：貼り始めは部屋の右手角から貼り始めます。
- (ウ)裁断：丸鋸やノコギリ等でカットしてください。
- (エ)割付①：床材を貼る長さ方向と直交する方向（床材の巾方向）の部屋の寸法を測り、貼り終わりの列の巾を確認してください。貼り終わりの列の巾は50ミリ以上残るようにし、また、部屋全体のバランスを考えて割付をして下さい。また、壁際に1ミリのクリアランスを取る事も考慮して下さい。調整が必要な場合は、貼りはじめの列の分の床材の巾（実が下向きに加工されている辺）をカットしてください。
- (オ)割付②：次に、床材の長さ方向の部屋の寸法を測り、1列目の貼り終わりの長さ（部屋の左側）が300ミリ以上になるように確認し、必要に応じて貼り始めの1枚目の、実が下向きに加工されている辺をカットしてください。
- (カ)基準墨：（エ）で巾をカットした場合は、実を含むカットした残りの巾寸法（使用する材料の寸法）＋クリアランス1ミリ、カットしない場合は実を含む製品の巾寸法＋1ミリの位置に、床材を貼る長さ方向に壁面と平行に最初の基準墨を引きます。また、その線と平行に、3列目にあたる位置に基準墨を引きます。（最初の基準墨＋製品の上端寸法×2の位置）
- (キ)接着剤塗布：床面に接着剤をくし目ゴテを使用してウレタン樹脂系接着剤を㎡あたり250～350g均等に一回の作業範囲部分に全面塗布します。一回の作業範囲（接着剤塗布範囲）は初めは2～3枚分くらいを目安に、作業に慣れて来たら徐々に範囲を広げていってください。（推奨：ルビロン101：トーヨーポリマー株式会社）
下地の状態によって塗布量が異なります。吸水性の低い下地（既存の塩ビ床、塗装された木製床等）は接着剤の硬化が遅くなるため、少な目に塗布してください。
吸水性の目安は高い方から：コンクリート＞合板＞既存塩ビ、木製床等：になります。
塗布後、接着剤の説明書に記載されている既定のオープンタイムを目安に、表面が手で触って乾いているか確認してから貼り始めてください。乾いていない場合はオープンタイムをさらに取り、次回からの塗布量を少なくするなどして微調整してください。また、可使時間にも注意してください。
- (ク)貼り始め：右手角から貼り始めます。

（ウ）、（エ）で調整カットした辺（カットしない場合は、実が下向きに加工されている辺）が壁際に来ます。

1ミリのクリアランスが維持できるようにスペーサーなどを使用して配置して下さい。



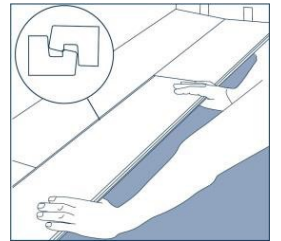
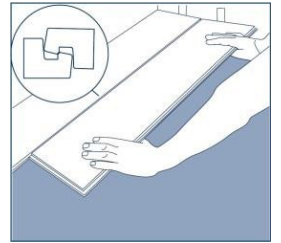
- (ケ)貼り込み：次の床材を最初の床材の短い実にしっかりと押し付け、白いゴムハンマーで実がはまり込んで平らになるまで強くしっかりとたたいて固定してください。
2枚の長さ方向が、基準墨に合っているか確認してください。
同様に順次貼って行き、1列目最後の1枚はクリアランスを考慮したうえで壁に合わせて長さをカットしてください。



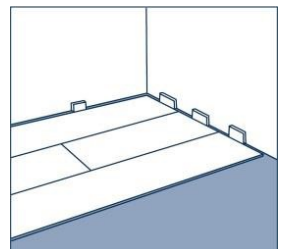
貼り込み2：次に2列目の右側に移動し、全体の貼り方（定尺、乱尺）を考慮した上で（エ）と同様に長さをカットしてください。1列目の短い辺の接合部と、2列目の短い辺の接合部は300ミリ以上離れるようにしてください。

1列目の長い実には、カットした材料の実を押し付け、（ク）と同様に固定してください。

つぎに、1列目の長い実と2列目初めの短い実のL型になった部分に、新たな材料の実2辺を押し付け、同様に固定してください。



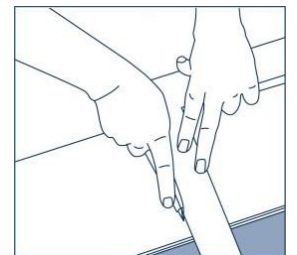
3列目まで上記の説明のように貼っていき、完了した時点で一度クリアランスと基準墨を確認し、必要があれば微調整してください。



(コ)・貼った後は、ポンドローラーで全体的によく転圧をかけ、部分的に浮いているような箇所や実のジョイント部分などは白いゴムハンマーで再度たたか、ハンドローラーでよく転圧をかけてください。

(サ)・転圧後、30分を目安に浮きなどがいないか確認し、浮いているような場合は再転圧をかけてください。

(シ)貼りじまい：調整後、順次部屋の端まで貼って行って下さい。必要であれば、3列ごとに墨を打ち、確認しながら作業をしてください。
最後の列は、1ミリのクリアランスを考慮した寸法で巾をカットし、実を固定して完了です。



(ス)施工後の清掃：乾いた雑巾やモップをご使用下さい。石膏ボードの粉などが付着して取れない場合は、水で濡らして強く絞った雑巾などでふき取って下さい。

(セ)表面に付着した接着剤は硬化する前に接着剤に対応する拭き取りシートなどできれいに取り除いてください。硬化後は取れなくなりますので注意してください。溶剤や溶剤を含むシートは材料のツヤ変化などを起こす場合がありますので、事前に確認してください。

(ソ)養生の注意：施工後は、お引渡しまで床面に傷がつかないように養生ボードなどで養生をしてください。テープ類は製品表面には直接貼らないで下さい。

6. メンテナンス

- ・ 本製品はワックスフリーですので、乾拭きや水拭き、クリーナーによる清掃にて美観を保ってください。日常のメンテナンスは雑巾やモップで乾拭き、あるいは硬く絞ったモップなどで水拭きをして下さい。
- ・ 汚れのひどい所は固く絞った濡れ雑巾や水で薄めた中性洗剤（床用クリーナー等）で拭き取ってください。推奨：弊社取扱 **BONA** フロアクリーニングキット
- ・ 水周りや、室内と屋外の出入り口付近など、水がかかりやすい箇所で、施工際(端部)の箇所は、あまり水がたまらないようにしてください。出入り口付近には吸水性のあるマットなどを推奨します。端部から下地に水分が入り、カビや変色などの原因となる場合があります。

ハイドロコルク取り扱い上の注意

- ・ ハイドロコルクは天然コルクを芯材とし、表面と裏面に PVC を使用した製品です。ハイドロコルクの美しさを長く保つためには、施工後に関して下記事項を必ず守って下さい。
- ・ ●耐水性に優れた商品ですので、表面からの水分には耐久性があります。
- ・ ●冷蔵庫やピアノのように重い物は長期間の設置により凹みを生じる場合があります。板を敷いて重量を分散させる、家具の脚部にキャップをはかせるなどの配慮が必要です。
- ・ ●傘や先の尖った器物の持ち込みは、床損傷の原因になりますので避けて下さい。
- ・ ●書棚、整理棚などの位置の微調整も棚の中の荷物が入ったままですらなく、中の荷物を一旦だしてから棚を持ち上げて移動するようにして下さい。
- ・ ●家具や椅子が床と接する面にはフェルトや柔らかいゴムキャップなどをつけ、また出来るだけ引きずらないようにすることで傷を防ぐことが出来ます。また、キャスター付きの椅子や家具を使用すると、床材の表面にへこみや傷、表面剥がれが生じる恐れがありますので、マットなどを敷く等してください。
- ・ ●カーペット、玄関マットの固定の為に床に貼ったテープなどを不用意に剥がすと、表面を損傷することがありますので注意して取り除いてください。
- ・ ●乾燥しすぎは収縮による隙間や反りの原因となりますので、加湿器で部屋の湿度を 35～65%以内に調節するのが理想的です。
- ・ ●ホットカーペットの使用は熱がこもり、突き上げの原因となります。その場合、一般的な断熱性のシートを敷いて熱を和らげてご使用下さい。
- ・ ●定期的にメンテナンス（クリーニング）をすることにより表面の美観をより長く維持することが出来ます。
メンテナンス用品は弊社取扱いの **BONA** フロアクリーニングキットを推奨しております。
- ・ ●強いアルカリ性や酸性の洗浄剤を使用しますと、変色や白濁の原因となりますのでご注意ください。また、アルコールや除菌液等を長時間滞留させることもお避け下さい。
- ・ ●窓際など直射日光が長時間当たると、日焼けによる変色が起き、絨毯やカーペットを敷くと色違いの原因となりますのでご注意ください。また、劣化が生じやすくなりますので、直射日光はカーテンやブラインドなどで遮ってください。

エーディーワールド販売株式会社

東京都港区西新橋 3-23-6

[TEL:03-5405-1125](tel:03-5405-1125)

<http://ad-world.co.jp/>

BAAABB